

【2020 年度/総合基礎科目領域/人間基礎科目群】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
手話の理論と実際		選択	2	1.2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
石井 方子	講師控室	kyoumu	授業中、メールあるいは Teams で質問等受付		
授業の目的・概要	<p>&lt;目的&gt; 共生社会の一員として社会的障壁に対する知識を深め、聴覚障害者及び手話言語について学ぶことを目的とする。</p> <p>&lt;概要&gt; 課題学習、同時双方向型授業を通じて、手話言語、聴覚障害者及び手話の歴史、文化、特性、聴覚障害者に関連する福祉制度について学習することを目的としたワークシートを行う。課題に対するフィードバック、質疑応答で理解を深める。</p>				
学習上の助言	授業内容に関する質問は、メールと同時双方向型授業中に受け付けている。積極的に質問して疑問を解決し、理解を深めて欲しい。				
教科書	教科書は指定しない。必要に応じてプリントを配布する。				
参考書	わたしたちの手話学習辞典 I、II / 全日本ろうあ連盟発行				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	動作視覚言語である手話について知り、習得に努める。		HSU(6)		
②	学んだ手話、他の方法を用いて聴覚障害者と会話できることを知る。		HSU(2)(4)(5)		
③	聴覚障害者や手話の歴史、文化、特性を理解する。		HSU(1)(2)		
④	聴覚障害者や手話について習得した知識を他者に説明することができる。		HSU(5)(6)		
⑤	現行制度を知り、共生社会に実現の方策を考察する。		HSU(1)(2)(4)(5)(6)		
⑥	将来の職業を想定し支援のあり方を考察する。		HSU(1)(2)(4)(5)(6)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション：授業の概説 手話とろう者の基礎的知識及び挨拶の手話表現について学習する。 フィードバック： コメントをつけて課題の返却を行う。	印刷教材等での授業	提示した資料を基にレポートを作成する。	6	
2	自己紹介の手話表現 (名前、数字) について学習する。 フィードバック： 同時双方向型授業においてコメントをつけて課題の返却を行う。	印刷教材等での授業	提示した資料を基に手話表現を練習し画像を提出する。	6	
3	聴覚障害者の基礎的知識について学習する。 フィードバック： コメントをつけて課題の返却を行う。	印刷教材等での授業	提示した資料を基にレポートを作成する。	6	
4	自己紹介の手話表現 (家族、指文字) について学習する。 フィードバック： 同時双方向型授業においてコメントをつけて課題の返却を行う。	印刷教材等での授業	提示した資料を基に手話表現を練習し画像を提出する。	6	
5	自己紹介の手話表現 (趣味) について学習する。 フィードバック： 同時双方向型授業においてコメントをつけて課題の返却を行う。	印刷教材等での授業	提示した資料を基に手話表現を練習し画像を提出する。	6	
6	聴覚障害者に関わる法律について学習する。 フィードバック： 同時双方向型授業においてコメントをつけて課題の返却を行う。	印刷教材等での授業	提示した資料を基にレポートを作成する。	6	
7	自己紹介の手話表現 (仕事、住所) について学習する。 フィードバック： 同時双方向型授業においてコメントをつけて課題の返却を行う。	印刷教材等での授業	提示した資料を基に手話表現を練習し画像を提出する。	6	
8	手話の会話を幅広く学習する①	同時双方向型授業	学習した手話表現を復習する。	4	
9	手話の会話を幅広く学習する②	同時双方向型授業	学習した手話表現を復習する。	4	
10	聴覚障害者の基礎知識について学習する	同時双方向型授業	提示したプリントによる復習を行う。	4	

【2020 年度/総合基礎科目領域/人間基礎科目群】

11	聴覚障害者に関わる福祉制度について学習する。 手話の会話を幅広く学習する①	同時双方向型授業	提示したプリントによる復習を行う。学習した手話表現を復習する。	4			
12	手話の会話を幅広く学習する②	同時双方向型授業	学習した手話表現を復習する。	4			
13	手話の会話を幅広く学習する③	同時双方向型授業	学習した手話表現を復習する。	4			
14	手話の会話を幅広く学習する④	同時双方向型授業	学習した手話表現を復習する。	4			
15	手話の会話を幅広く学習する⑤	同時双方向型授業	学習した手話表現を復習する。	4			
試	レポート試験 実技試験						
達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		15	15	50	0	20	100
総合力指標	知識・技術力	5	0	0	0	0	5
	思考・推論・創造する力	0	5	0	0	0	5
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	5	5	10	0	0	20
	コミュニケーション力	0	0	20	0	10	30
	取組みの姿勢・意欲	0	5	10	0	10	25
	問題を発見・解決する力	5	0	10	0	0	15
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法	
試験	①	✓	手話表現を読み取り意味に合った選択をする。達成度評価 15%。				記述されたものを評価し返却する。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①		与えられた課題に沿ったレポートを前期試験日までに提出する。「講義を受けて理解できたこと、心理面及び行動面での変化」「共生社会実現のために考えられる支援のあり方」のいずれかをテーマに 800 字から 1200 字にまとめる。文章の書き方にも注意を払い、主張したい内容が伝わるよう表現されているかが評価ポイントとなる。達成度評価 15%。				添削、コメントを記入し返却する。
	②						
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
成果発表	①	✓	Teams による遠隔授業において学習した手話表現を発表する。教員が訂正、指導、講評を行ったのち、意見交換を行う。達成度評価 50%。				学生の表現を訂正、指導する。復習の成果を確認し、評価する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	授業態度を総合的に評価する。積極的に実技演習に取り組んでいるか、気づきや疑問を質問として提出できているかを評価のポイントとする。達成度評価 20%。				課題ではコメントをつけて返却、同時双方向型授業では授業中にコメントをする。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					

【2020 年度/総合基礎科目領域/人間基礎科目群】

備 考

\*Teams を使った同時双方向型授業を行います。授業時は通信容量が無制限の Wi-fi 環境を推奨します。  
\*今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更もあります。

手話の授業は演習が中心となるため受講定員を 30 名までとする。希望者超過の場合は上級生を優先する。  
私語を慎み、聞くことから見ることに集中力を切り替えて臨むこと。  
聴覚障害者に対する理解を深めたい、新しい言語に触れてみたい、という意欲ある学生の受講を望む。

**教員の実務経験**：山梨県、市町登録手話通訳者として 19 年間の実務経験があり、厚生労働大臣認定の手話通訳士有資格者である。

山梨県手話通訳士会事務局長。

県内のコミュニティ手話通訳業務の他、手話奉仕員養成講座、手話通訳者養成講座、手話通訳士養成講座の講師を担当。

2013 年日本手話通訳士学会で論文発表「登録手話通訳者が意欲を持ち続けていくためには」

2019 年から全国政見放送担当手話通訳士の指導講師。

**実践的授業の内容**：実務経験に基づきわかりやすい講義を提供できるよう努めたい。